

## 2020.10.30/ウォーキングクラブOP企画

### 海上の森・物見山から赤猿峠経由、猿投温泉へ



三角点でウォーキングクラブ健脚者の雄姿



市界尾根稜線で小休止、赤いザックも仲間入り

リーダーからのメールで、海上の森・物見山から猿投山間の市界縦走と、その周辺に点在する名所旧跡を歩く健脚コースの提案があり、この強行なプランに正直仰天しました。

特に今回の目玉は猿投山山中の東の宮・西の宮と菊石七滝巡りで、最後に藪漕ぎとガレ場ザレ場の道の薄い鈴が滝湖に至る無謀とも思える企画でした。

里山低山とは言え、歩行距離は17Kmにもおよび、あまりハイカーも入らない西尾根(広沢尾根)を越えて一歩間違えれば転倒滑落の危険もあり、命にも関わるコースで高齢者にとってはかなりハードルの高い危険な計画です。

軽薄な小生は考えているうちに何とか達成できそうな気分になりましたが、やはりそれは大きな誤算である事が後で分かりました。

押すも押されぬ立派な後期高齢者4名の有志は、リニモ藤が丘駅改札口に7時47分に集合して、八草で愛知環状鉄道に乗り換えて山口駅を8時20分に下車しました。

MANAKAをかざして改札口を通り抜け、早速マスクを外し、ストックを用意してスタートです。駅前の信号交差点を渡り、愛知環状鉄道のガードをくぐり抜けて、山口の住宅地を東に向

かい、国道R248のカルバートンネルを潜り抜け、海上の森の駐車場を左に見て、右の尾根を登攀すれば直ぐに三角点の山頂です。

展望台で上がった息を整えました。

当日の天気は雲一つない青空で空気が乾燥しており、風が少しあって幾らか寒く気が引き締まりました。羊歯の山道を辿り物見山登山口に至り、これからのロングコースを考えて、林道歩きで時間短縮を図り山頂に向かいます。

10時前に物見山に登攀。山頂からの展望を楽しむことなく「熊に注意」の警告看板を横目に見て、三条峠に向かいました。

右側は豊田市、左側は瀬戸市で市界の尾根稜線が登山道です。クヌギ・コナラ等の落葉樹からなるトンネルの尾根道は明瞭ですが、道標も・赤テープも無く、慣れていない者には分かり難くGPSが頼りです。

道には所どころに岩が飛び出していたり、浮き上がった木の根等の障害物が道を塞ぎ、うっかりするとつまづく恐れがあるので注意しながら慎重に歩行しました。

この様な単調な尾根道でも高齢者にはバランス感覚の衰えと脚の筋力低下は否めず、アクシデントに気を付け、よそ見をしながらの歩行は禁物です。



物見山山頂手前の丸太階段で左折すれば三条峠



薄暗い倒木の三条峠は道迷いの五差路



赤猿峠の高圧鉄塔は展望抜群  
遠くに養老山脈の奥に霊仙岳、右に伊吹山



左の稜線は東大演習林、右は折平山

大きな倒木障害が目印の三条峠に10時過ぎに到着しました。計画よりやや遅れ気味ですが、未だ問題なく皆さん元気澁刺です。

左折すれば山路林道、右折すれば広沢林道に至りますが、その間にオフロードバイクによるV字溝の道と尾根分岐の道が合流し、分かり難い五差路です。以前この峠でリーダーは道を間違えて難渋されたそうです。

三条峠を後にして一旦ゴロゴロ道の洄れ沢に下って、市界尾根に登り返して赤猿峠に向かいます。この先も距離は短い、アップダウンがかなり在り歩きずらい尾根稜線歩きです。

11時半に赤猿峠に到着して東海自然歩道に合流です。おあつらえ向きのベンチとテーブルが設置されていてランチタイムに相応しい場所です。食事が終わり、赤猿峠の北側の高圧鉄塔の展望台で眺望を堪能しました。

西側は養老山脈の先には霊仙岳を見ることができ、その右側には伊吹山がくっきりと展望できます。その手前には低い里山が瀬戸の街並みを包み込むように連なっているのが手に取るように見えました。

また足元を俯瞰すれば箱庭の様に赤津の家並みや、蛇行する東海自動車道が見えます。

当初の予定では、ランチタイムは猿投山の山頂でしたが、如何せん、軽快だった脚も3時間程の歩行で疲れが出て全員テンポが遅くなり、かなりの時間遅れです。

猿投山の登頂はリーダーの判断であっさり諦

めて止める事にしました。

当然そうなれば東の宮・西の宮も外すことになります。それを受けて広沢林道に下ります。広沢林道と赤猿峠からの合流地点のケルンの前で地図を前にして三密を避けての鳩首会議です。

折角なので団九郎の岩屋には寄りましたが、それ以外は大幅に省き菊石七滝も諦め、そのまま右折して広沢林道の雨裂のグランドキャニオンの林道崩壊地の廃道を歩きました。

広沢林道は等高線に沿って林道が蛇行しているので直線距離に比べて3倍以上の距離になっています。1時間ほどの林道歩きの末に、猿投温泉の手前の鈴が滝湖に到着しました。

ここまで来れば一安心です。

14時過ぎに猿投温泉にゴールし、早速日帰り温泉に直行、リーダー持参のチラシ割引券で本来1,500円/人のところ全員1,300円/人で入浴できました。泉質は天然ラドン温泉が売りのようです。無料送迎バスで16時00分の藤が丘行きに乗り帰路につきました。

リーダーの指示は適切で、あまり無理しないであっさり計画変更、臨機応変の意志決定は流石です。今回は豪華な温泉付き山歩きになり、久しぶりの温泉につかり心身ともに癒されました。因みに今回の山行は本願寺の我が家までで25,500歩、歩行距離16Km、歩行時間4:30になりました。

(記 31期 宮田岩男)



広見林道は土砂崩壊で廃道状態



山紫水明を思わせる鈴が滝湖